

(1) 『定福寺と人』

定福寺は、山深い四国の中央部の豊永郷に 724 年に創建されたと記録されている寺院です。2023 年には 1300 年目を迎えることとなります。急峻な地形の豊永郷で 1300 年の間、お寺が守られてきたのは、豊永郷の人々や定福寺を訪れて頂いた方々、またご縁のあった皆さまのお陰様です。

現在の定福寺の伽藍は、本堂、鐘楼堂、持仏堂、仁王門、庫裡、檀信徒会館（旧ユースホテル）がございます。定福寺に残る史料によると、本堂は 1748 年の大風雨により鐘楼堂と共に破損し、1779 年に山内家 9 代目藩主の豊雍公によって再建されています。かつては本堂の他に 12 の堂があり、仁王門までは回廊があったと記されています。仁王門の下には、教院がありました。教院は経典や史料などが保管されていた場所であり、3 つに区切られた部屋があったようです。中央の部屋は寺子屋のような場所になっていたことが記されています。教院は祝融のため明治時代になくなり、多くの経典や史料が焼失いたしました。定福寺のある豊永郷の粟生地区には、「東」や「中之坊」などの坊に由来する屋号が残り、「東」には僧侶名の位牌が現在も祀られています。現存する経典や次第などから数名の僧侶がいたこともわかります。

ご本尊は阿弥陀如来坐像、両脇に薬師如来、地藏菩薩、更に脇に不動明王立像と毘沙門天立像、聖天尊が安置されています。持仏堂には弘法大師、興教大師、行基菩薩が安置されています。宝物館には日本でも最古の部類になる木造の六地藏菩薩立像（笑い地藏）、四国最古の聖徳太子、毘沙門天立像、鎌倉時代の大黒天掛け軸、十一面観音菩薩立像（元加持ヶ森本尊）など、多くの仏さまが定福寺には安置されています。

平尾道雄氏によれば、かつて高知県に住む仏教系の宗教者の数は、1680 年の調査では僧侶 642 人（土佐国出身者 593 人、他国出身者 49 人）、修験山伏 246 人（郷在住 217 人、町在住 23 人、浦在住 6 人）がいました。1870 年の調査では寺院は、大小合わせて 613 宇（堂）があり、僧徒 1,239 人、僧 778 人、一向宗僧 461 人（妻帯が認められており家族は 325 人）、修験山伏は 707 人（155 戸）とあります。[平尾道雄 1962 : 115-120]

高知県は明治時代の神仏分離令（廃仏毀釈）の影響を全国でも強く受けた県の 1 つです。定福寺に残る史料には、真言寺院は 230 カ寺が廃寺廃号となり、僅かに真言宗は 16 カ寺が残ったとあります。定福寺は檀信徒、豊永郷の人々、また定福寺に縁のあった方々の申し出により廃寺を免れました。この時、定福寺住職であった野本進甲師は、定福寺が廃寺を免れたのを確認し、住職を弟子の猪狩真浄師に託し、自分は高知県下の寺院の復興に赴いたことが記されています。史料には「他国僧ヲ駆入廢寺跡エ出張シ帰依ノ檀徒ヲ教導スルコト幾多ナリ（中略）庶民官ヲ恐懼シテ不得成也然ニ表面は神祭式ナリ内心ハ仏祭式ヲ信スル者十二七八ヲ口タリ因茲彼野本進甲特リ自費ヲ投シテ布教宣尽力セラレタルニヨリ遠近帰依ノ信徒約一万五千戸ヲ過タルナリ付テハ諸縣ノ僧ヲシテ出張所ヲ設ルアリ又再興具移転等ヲ願出ルモ屢々有之ト云モ官ニ之ヲ受理セズ」とあります。この史料からは、野本進甲師は豊永郷から山を越え物部・香北町・夜須町・南国市・高知市・土佐市・本山町まで歩き、各寺院に僧侶を住まわせ復興をされてきた様子がわかります。その内 8 カ寺が復興の中心の寺とされています。香南市野市町金剛寺（法類 白木恵達師を住職）・香南市香我美町寶幢院（三好戒圓師）・長岡郡本山町金剛寺（弟子英隆善、後任英隆真、現住田房賢澄）・香美市香北町寶珠寺（弟子の堂岡理昌師を住職）・長岡郡大豊町豊楽寺（弟子の市原寛禅師を住職）・土佐郡土佐町地福寺（石川猪城師）、香南市野市町大日寺（弟子仲野栄従師を住職）、土佐市高岡清滝寺（野本進甲師が住職）です。中でも寶幢院は野本進甲師の師である無得庵淳善律師が住んでいた場所であり、野本進甲師が私財を投じて移転してきた寺として、復興の基礎としています。

このように、定福寺は御縁のあった方々の助力のお陰様で廃寺を免れ、また多くの寺院の復興のきっかけを作ることができました。すべて定福寺を守ってくださった多くの方々や信仰のお陰様です。

豊永郷には各地区にお堂とお宮があり、合計で 34 ヲ所ございます。定福寺では夏に、すべてのお堂で『仁王経』を修法し唱え、場所によっては虫送りの御祈禱を現在も行っています。豊永郷の人々を始め、定福寺に御縁のあった方々、これから御縁があるであろうすべての皆さまが、今日一日、安心して過ごせますようにと、毎朝 7 時より本堂でお祈りをさせて頂いています。

多くの方に定福寺を見守って頂き、定福寺も皆様を見守っています。そのつながりのお陰で、1300 年定福寺が豊永郷にあるのだと思います。定福寺の先師の様子から、お寺は祈る場であり、学ぶ場であり、集う場であったことがわかります。それらの思いを引き継ぎ、多くの方が様々な理由で定福寺にお越し頂けるように精進してまいります。これからもよろしく願いいたします。

参考資料

平尾道雄

1962 『近世社会考』,高知市民図書館,115-120.

*僧侶の人数は幡多郡を除いた調査であり、年齢は 15 歳以上

定福寺史料

1887 『定福寺出張所記』

1887 『寺格願之義』